巻　頭　言

経営情報学部長　竹下 誠二郎

静岡県立大学の金川幸司教授、兵庫県庁の今井良広氏、そして名古屋大学の後房雄教授による「コミュニティ・エンパワメントの視点から見たバンダアチェの復興に関する研究　－2004年インド洋大津波後の生活復興、居住移転を事例として－」は、2004年に起こったスマトラ沖地震とその津波による被害からの復興過程を検証している。

インドネシア・スマトラ島バンダアチェ地区及びその周辺の村落を調査することによって、復興期における生活再建と住宅再建の問題を取り上げている。さらに、支援から取り残され、排除される災害弱者にもスポットライトを当て、外部からの支援を内性化していくエンパワメントの視点から分析を行うことが必要だと分析している。コミュニティレベルにある程度フォーマルな自治構造を構築しておくこと、外部からの支援をいかに内発的なものに変えていくかといったコミュニティ・エンパワメントの側面、コミュニティの結束の強さなどは、東日本大震災等における復興過程にも一定の示唆を与えていると結んでいる。

兵庫県庁の今井良広氏と静岡県立大学の金川幸司教授による「英国の社会的企業による株式公募　－ベンコムスとコミュニティ・シェアーズ－」では、英国の社会的企業の一形態であるコミュニティ益増進組合（ベンコムス）とその株式公募（資金調達）スキームであるコミュニティ・シェアーズの実態を明らかにしている。株式公募までのプロセスや組織構造・運営、株式公募の結果について検証し、ベンコムスの特徴とコミュニティ・シェアーズの意義と役割について論じている。

この論文ではコミュニティにとって、コミュニティ・シェアーズがエンパワメントの機会創出、遊休資産の有効活用、地域アイデンティティの形成、新しいネットワークの構築、経済活性化等の面で有意義であることも明らかにした。また、今後の研究課題として、コミュニティ・シェアーズがキャパシティに欠ける貧困地域で適用可能かどうかについては疑義を呈している。

本年度末に大平純彦先生が満期定年をお迎えになる。大平先生は1976年３月に東京大学経済学部経済学科を卒業し、経済企画庁にてご活躍された。経済企画庁退官後は静岡県立大学誕生の1987年から一貫して経営情報学部にて当学部の発展にご尽力下さった。大学院経営情報イノベーション研究科においても設立以来、ご活躍いただいた。

ご専門は地域経済分析、経済政策分析、国民経済計算、地域経済計算であり、統計データに基づく実証的研究を行った著書や論文など、多くの研究業績を残されている。

大平先生の優しいお人柄を慕う教員・学生は多く、計量経済学ゼミをはじめ、学生からは絶大な人気を博した。

この巻では、大平先生からお別れのお言葉を頂戴している。大平先生の今後のさらなるご活躍をお祈りしたい。